

# 仙北市の緊急雇用・経済対策その効用は？ 地元企業の新支援を真剣に

6月定例会に提案され、可決された経済危機対策臨時交付金事業費は6億6870万円。20年度補正予算の地域活性化交付金事業とあわせると11億3,700万円を超える。これらの対策事業等の予算が、地域経済にもたらす効果が注目される。今回の企業訪問は、地元企業である角館建設工業、門脇木材、田沢湖芸術村を訪ねそれぞれの企業の経済危機に対する判断や対応策についてうかがった。

## ■仙北市に降って沸いたようなお話

「百年に一度の経済危機」が仙北市にもたらした対策事業費をみると降って沸いたようなお金の額である。11億円とは、とてつもない驚きを覚える。その世間では「予算のバラマキ」という批判もある



解体が決まった旧角館図書館

が、財源に乏しい仙北市にとつては、まさに救いの神が現れたようなものである。

「これまで通常予算で賄うことができずに、積み残されてきた事業に飛び付けるので、嬉しい限りである。しかし計画された事業そのものが、将来にわたってどれだけの効果を生み出すかをまず計らなければならぬ。このような捉え方で議論したが、当局は「対策事業はフリーではない。メニューがあつてそれにそつた事業でなければ認められない」という。将来に反映できる経済対策といえども「公的なもの」と制約がある。民間サイドの景気刺激策には程遠いものといえる。

今回の5億6,000万円の事業内訳は、公共施設の解体事業として、旧し尿処理施設、旧図書館の費用が1億8,800万円。学校関係の教育に係る事業として、パソコン整備、トイレの洋式化など1億7,350万

円。今話題の地上デジタルテレビを公共施設に購入する予算が2,042万円。

玉川河川敷整備事業は8,200万円が多目的広場を整備。その他に防災用行政無線システム整備費7,150万円、医療機器補助1,800万円、公用車の更新が約2,400万円である。



多目的広場となる玉川河川敷国体馬術場跡

「今は地元だけでなく、全国的に雇用がなくなつた。これまでのように「地方がダメで首都圏が良い」という雇用状況ではない。ここはじっくりと「地場産業興し」の策を考えなくてはならない」と考える。

最悪の事態にある建設業、住宅建築が進まず、資材販売に苦しむ木材業、お客さんの伸びに不安を抱える観光など仙北市の企業は一段と厳しさが増している。いずれも新事業を支援する体制が必要であり、速やかに手を打たなければ業界の停滞によって、いろんな歪みが生じることになる。特に農業のかたわら建設業に従事してきた作業員は、農業所得が落ち込み、給与収入も断たれる事態に、音を上げています。

「建設業は地域の約1割を担う基幹産業。異業種の人達と力を合わせて新たな雇用やビジネスを生み出して欲しい」と支

援策の費用を計上している国交省だが、仙北市はそれに応える体制になっていない。

## ■角館建設工業

広報委員3人(沢田、浦山、浅利)は去る7月2日に、角館建設工業株式会社、仲野谷社長を訪問し、緊急雇用・経済対策の効果などについて直接インタビューをした。公共事業の減少は小泉内閣の時から急激に始まつて現在も続いている状況で受注工事は毎年減少している。現場の方もより安価の価格(大型施工機械使用等)で請負するため雇用の拡大は望めないでいる。人員や経費の削減努力をしても、公共工事の減少は、資金回転のため赤字受注も多くなり、請負額が低くなる悪循環に陥りやすくなっている。

国の経済危機対策臨時交付金事業は…仙北市には約6億8,000万円ほど交付され、国県に於いては発注が土地改良事業などで進捗しているようだ。

仙北市の各種事業も多種多様にわたっているようであるが市内に現在建設業者がA級10社、B級15社、C級10社の35社が営業している。入札参加の条件を市外に厳しく、当市の業者の受注機会をふやして欲しいと思っ

ている。この経済危機対策臨時交付金事業もまだまだその効果が現れてきていない状況であり、測量、設計用地確保など各段階のスピード化を図っていた

## 門脇木材

当班の企業訪問は、森林の整備から木材の伐採、製材加工、販売と森林、林業全般に係る会社



緑の雇用制度で後継者育成の門脇木材

特に建築資材については例年150万戸の住宅が現在100万戸以下に落ち込んでいる。

木材の動向については、門脇代表より雇用状況、経済対策について伺って参りました。



インタビューに答える角館建設工業社長

木材製品の単価も10%以上下がり、需要も20%から30%減少している。当社は森林資源を無駄なく活用するため現在は「フミナ」集成材を始め、小径材を型枠の土留材、杉の皮を家畜の敷材や燃

この様に森林への経済効果があり、平成21年は10名の新規雇用に繋がっている。当社では木材製品が毎年20%増となっており関東を中心に販売にも力を入れて

料用に加工するなどあたらしい分野へ挑戦している。国の森林に対する新たな政策として地球温暖化防止対策(CO2を森林が吸収源になること)が

造林補助事業においても、植付、下刈、除伐と例年の2倍以上の事業量が出されている。国の補

## 「わらび座」

お客さんの数は横ばい

株式会社わらび座 パートを含め社員数220人を数える株式会社わらび座。

特に森林作業員の高齢化に伴い、後継者を育成するため、国県より年間の賃金と、福利厚生費の1/2助成が予算化されている。「緑の雇用制度」も継続しており、当社でもこの制度を利用し後継者の育成に努めている。

社員の福利厚生も充実しており、仙北市においては雇用人員の多い職場である。ホテル、温泉、飲食に劇場と幅広い事業を展開している。

全国的に「たざわこ芸術村」が売り物だが、地元仙北市においては文化の拠点となっている。そんな株式会社わらび座の



2011年60周年のイベントを計画しているわらび座

「経済危機と叫ばれているが、最近のお客さんの動向はいかがですか」という質問に、青山さんは「総体的には横ばい

えらることで理解を得ようとしたが、料金値上げは入浴客に負担となっているようだ」と苦しげだった。特に「毎日ご利用いただくお客さんは、料金値上げが響き減少気味である」とかたかった。

世界的経済不況の中、ここわらび座は雇用の面でも大健闘しており、2011年には60周年の記念イベントを計画している。

最後に行政に対する意見要望をうかがって見た。「小中学生に年1回程度観劇に親しんで欲しい」と思っている。その点行政に支援していただきたい」という要望があった。もう一点は今後の仙北市を考えるとという視点で、角館と結ぶ道路(神代第一幹線)の道路整備の要望があった。